

農業の障害者への効果を探るアンケート

結果概要



2020年9月

一般社団法人 農福連携自然栽培パーティ全国協議会

【目的】

自然栽培パーティでは、昨年度、公益財団法人ヤマト福祉財団様の助成を得て、「農業の障害者への効果を探るアンケート」を実施しました。

「農業はいい影響があるよ」という話をよく聞きますが、そういった事例を幅広く集め、農福連携の効果を探っていくための基礎資料を得て、自然栽培パーティのみなさんにも共有していくことが目的です。

【アンケートの配布と回収】

自然栽培パーティ参加施設のうち農業を2年以上行っている、54の事業所にメール送付し、**23の事業所から回答を得ました。**

送付：2019年12月13日 ⇒回収：2020年3月13日

アンケートは3種

①事業所アンケート

事業所での自然栽培の農業の取り組み状況についてのアンケート

②職員アンケート

職員が、自然栽培の農業に携わるようになってどのような変化があったかなどを記入するアンケート
事業所ごとに自然栽培農業に携わっている職員数分を一覧形式で回答 **(99名分の回答を得ました)**

③利用者アンケート

利用者が、自然栽培の農業に携わるようになってどのような変化があったかなどを
利用者を支援をしている職員が記入するアンケート
事業所ごとに自然栽培農業に携わっている利用者数分を一覧形式で回答 **(189名分の回答を得ました)**

【事業所アンケート】

ブロック別回収状況

	送付	回収
北海道	6	3
東北	2	1
関東	7	3
東海	16	10
北信越	6	3
関西	4	1
中国	2	0
四国	1	0
九州	9	1
沖縄	1	1
計	54	23

事業所から見て、
自然栽培の農業に取り組むようになったよかったと思う点

主な回答

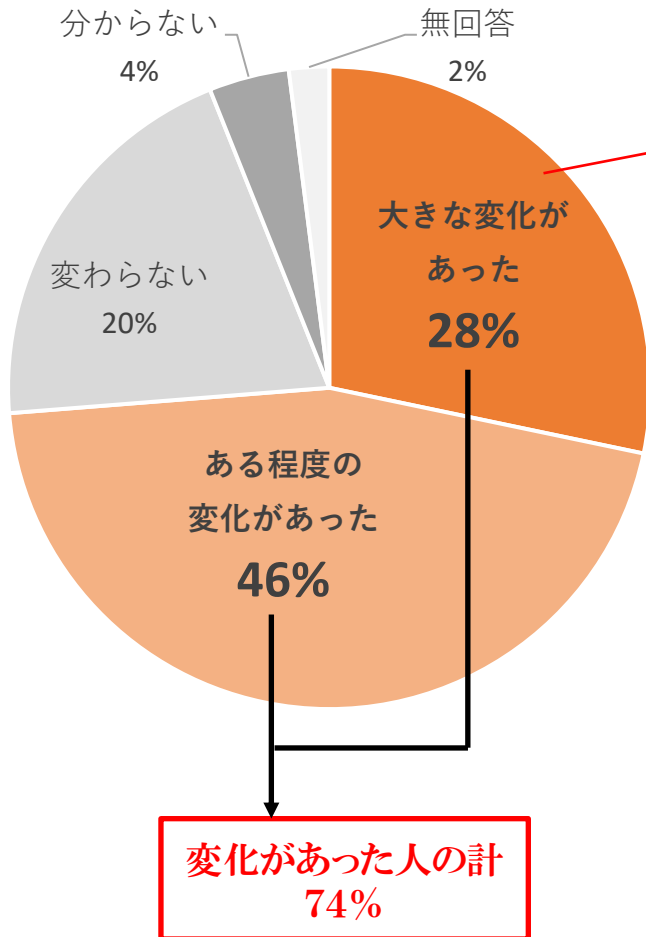


- 農薬や化学肥料を使用しないので安心して利用者に作業してもらえる
- 地域やいろいろな人とのつながりが生まれる
- 農作業は、利用者の仕事の幅が広がる、達成感が得られる
- 利用者が積極的に楽しそうに作業している

- 事業所からは、自然栽培の農業に取り組むことで、利用者のモチベーション向上につながる可能性があると感じている様子がうかがえる

【職員アンケート】 23の事業所から99名分の職員の回答を得ました。

Q.自然栽培の農作業に携わるようになっての
職員自身の利用者支援意識の変化有無



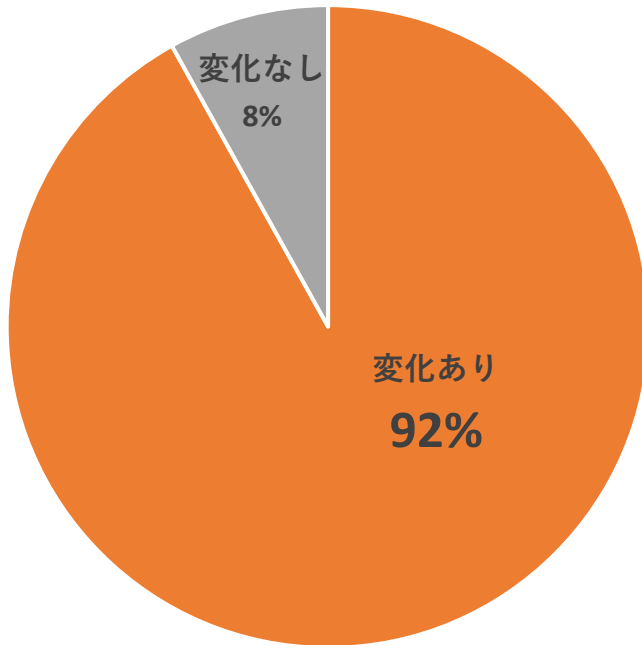
【大きく利用者意識が変化した職員の主な変化内容】

- 支援するという意識から、利用者といっしょに働く意識に変わった
- 単に作業をするから活動の意味を理解できるようになった
- 「しなければいけない」から「したい、やってみたい」に変わった

□ 自然栽培の農作業に行うことが、職員の支援意識変化にも大きく寄与している結果となった。

【職員アンケート】 23の事業所から99名分の職員の回答を得ました。

Q.自然栽培の農作業に携わるようになっての
利用者支援意識以外の職員自身の変化有無



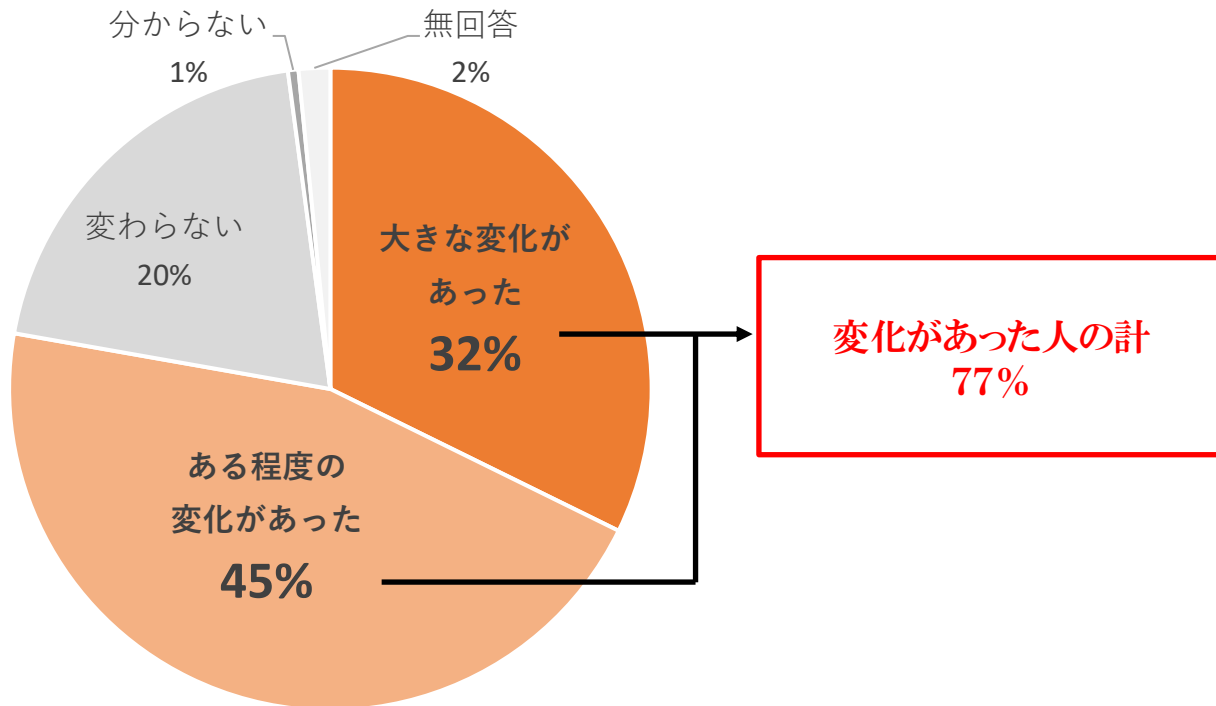
Q. 職員から見た自然栽培農業の利用者への効果
(主な回答)

- 自然の中でリラックスして作業ができる
- やりがいが生まれる
- 利用者が自分の役割や得意なことを見つけられる
- 作物を育てることや生き物への関心が生まれる

- 「自然栽培の農作業に携わるようになって利用者支援意識が変わった」と答えた職員は92%に達している。
- また、職員から見て自然栽培農業は、利用者の「やりがい」や「関心」を見つけられる効果があると感じている様子。

【利用者アンケート】20の事業所から189名分の利用者の事例を得ました。

Q.自然栽培の農作業に携わるようになっての利用者の心身・態度などの変化有無



□ 自然栽培の農作業を行うことが、利用者の意識・態度に影響を及ぼしていることがわかる。

【利用者アンケート】 20の事業所から189名分の利用者の事例を得ました。**Q.自然栽培の農作業に携わるようになっての利用者の心身・態度などの具体的な変化(主な回答)****精神的にネガティブになることが減る、過激な行動が減るなどの事例**

- 自傷行為が減った、物を壊さなくなった
- 怒ってパニックになる機会が少なくなっている
- 嫌なことを思い出して不穏になることが減った
- 精神科への通院・服薬がなくなった

気持ちが安定する、受け入れられることが増えるなどの事例

- 気分の波が多くみられ、作業途中で伏せることもあったが、現在は気分の波はほとんどない
- 変化苦手で色々な仕事をするのに抵抗があったが、変化に順応して取り組めるようになった
- 表情が柔らかくなった
- 作業に見通しがもてないと混乱していたが、アバウトなことでも受け入れられるようになった

人に優しくなるなどの事例

- 不仲であった他利用者さんに優しくなった
- 職員によって就業態度が違ったが、どの職員でも仕事に取り組めるようになった
- 思いが伝わらず良く怒っていたが、褒めてとスタッフに笑顔で寄ってくるようになった
- 同じ自閉症の利用者さんと握手をしたり相手を思いやる言葉が聞かれるようになった

日常生活が改善するなどの事例

- 偏食が大きく改善され、しっかり食事をするようになった
- 週に2~3日半日しか出勤できなかったが、週5日一日仕事ができるようになる
- 入浴ができるようになりつつある

昨年度実施アンケートにより、

「農作業をすることで障害者にどんな変化があったか」、「職員にも変化があったのか」について多くの事例を集める

ことができました。

アンケート回答をみると、職員、利用者とも自然栽培の農作業を行うことで意識や行動に大きな変化が見られることが確認でき、特に、利用者の具体的な変化から、農福連携の効果についていくつかの可能性が見えました。

(前ページ参照)

今後は、集めた利用者の事例をもっと深堀して、どんな良い影響があるかを分類化したり、良い影響が起こった理由や要因を調べ、「農業が障害者を元気にさせるのはなぜか」を探る活動を進めていきたいと思います。

そうすれば、農福連携のメリットを「福祉」という視点から説明できるようになると思っています。